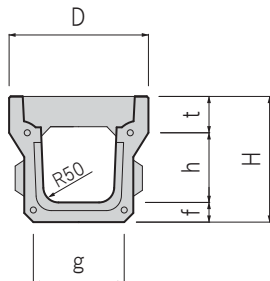


特長

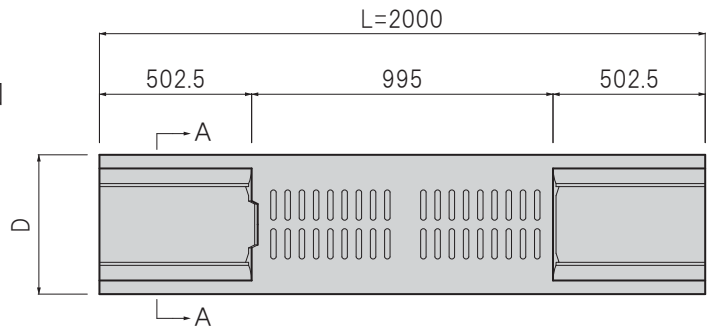
- 1 防音構造になった落蓋側溝なので、ゴム等の緩衝材が不要です。
- 2 鹿児島県型の落蓋側溝と断面が合致し、接続可能な落蓋側溝です。
- 3 端部が開渠になっているので、切り加工、目地処理が容易です。

標準図

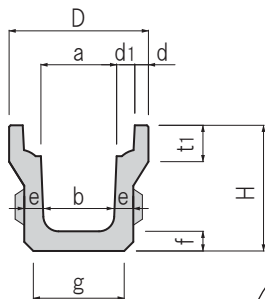
■正面図



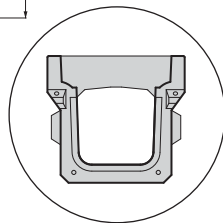
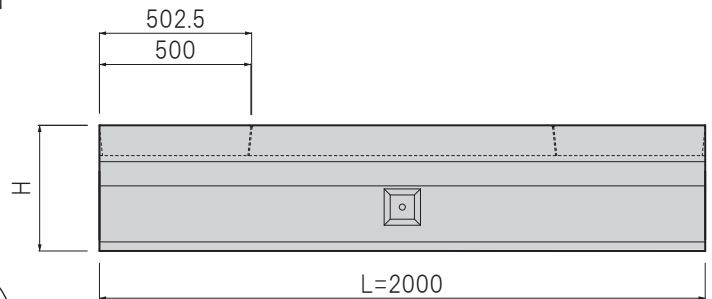
■平面図



■A-A断面図



■側面図

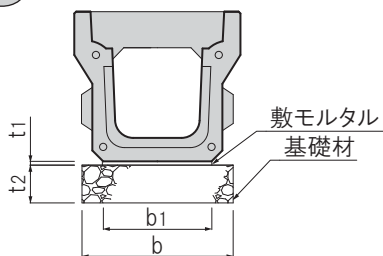


※300×300は凹凸式

規格表

呼び名 a×h	寸法(mm)										参考重量(kg)	
	D	H	d	d1	t	t1	b	e	f	g	L=2000	L=1000
250×250	460	415	45	55	100	102	230	65	65	300	400	200
300×300	520	490	50	55	120	122	280	70	70	360	512	256

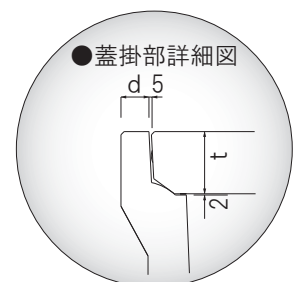
施工図



材料表

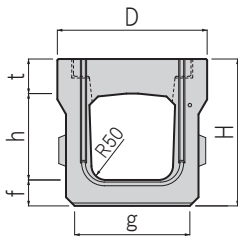
(10m当り)

呼び名	寸法(mm)				基礎工	
	b	b1	t1	t2	基礎材(m ²)	敷モルタル(m ³)
250×250	400	300	10	100	4.00	0.030
300×300	460	360	10	100	4.60	0.036

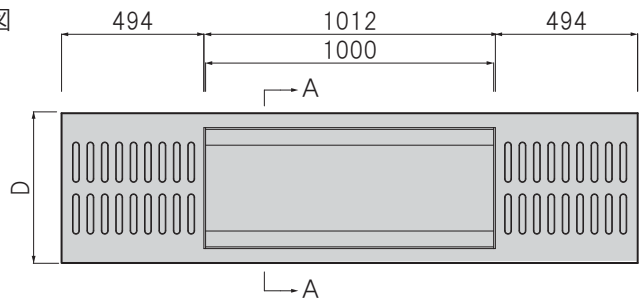


標準図

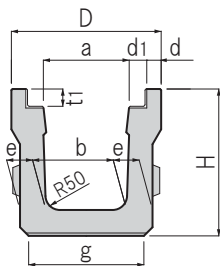
■正面図



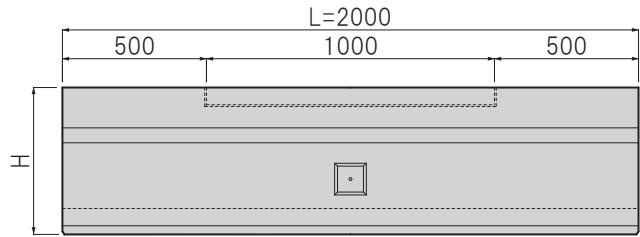
■平面図



■A-A断面図



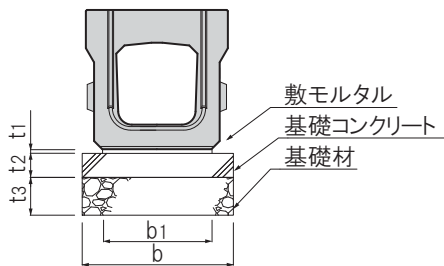
■側面図



規格表

呼び名 a×h	寸法(mm)										参考重量 (kg)
	D	H	d	d1	t	t1	b	e	f	g	
300×300	520	510	55	55	120	120	280	90	90	400	580

施工図



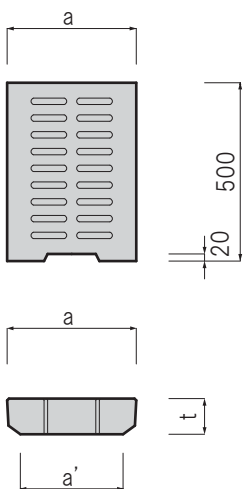
材料表

(10m当り)

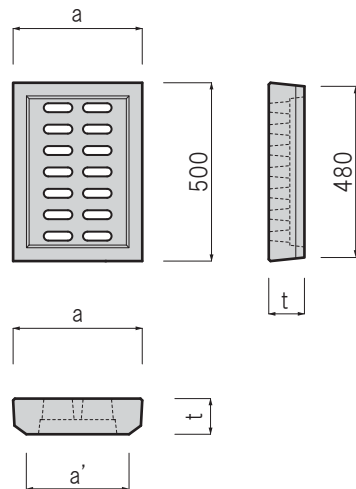
呼び名	寸法(mm)					基礎工		
	b	b1	t1	t2	t3	敷モルタル(m ³)	基礎コンクリート(m ³)	基礎材(m ²)
300	500	400	30	50	100	0.120	0.250	5.0

標準図

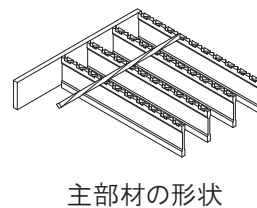
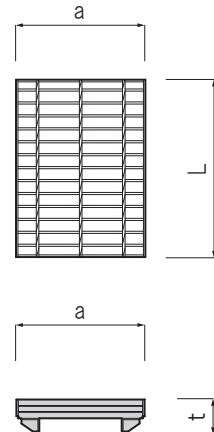
■ 蓋板



■ 集水蓋(FRC)



■ グレーチング



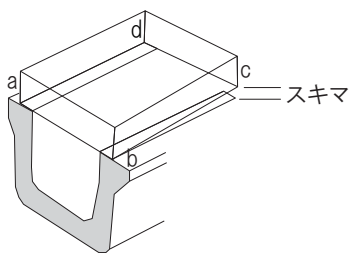
主部材の形状

規格表

呼び名	寸法(mm)											
	コンクリート蓋				集水蓋				グレーチング蓋			
	a	a'	t	参考重量(kg/枚)	a	a'	t	参考重量(kg/枚)	a	t	参考重量(kg/枚)	
											L=995	L=498
250用	362	288	100	40	362	288	100	28	362	100	34.7	17.3
300用	412	332	120	55	412	332	120	38	412	120	40.7	20.9

column 【側溝蓋の音の原因は何???】

■ 図1

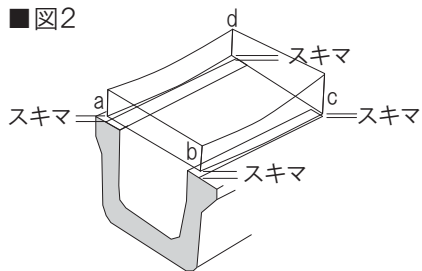


側溝とその蓋の接点で、従来は多少のスキマ、ガタツキが避けられませんでした。ゴムをあてがってそのショックを和らげるなどの対策を施しても、完全に解消することは技術的にたいへん難しい、というのが現状でした。そもそも、その原因を探ってみると……

●ネジレによる音

(図1)のように、側溝と蓋の接点は“ネジレ”のために3点(または2点)となっています。つねに接触する2点を結ぶ対角線を中心に、重量が載った方にスキマ分だけ下がり、そのときの衝撃で音が発生します。

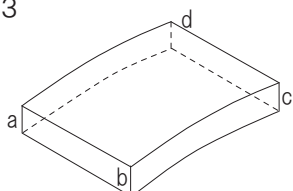
■ 図2



●曲がりによる音

また、蓋に“曲がり”があると、つねに四隅が浮いた状態(図2)になっているため、どの部分に重量が載っても、衝撃で音が発生することになります。曲がりがない(図3)のようになっていたとしても、実際には曲がりやネジレが複合して存在しているため、4点接触はほぼないといえるでしょう。

■ 図3



●ネジレ+曲がり問題

上述のように、従来製品では、単なる“ネジレ”や“曲がり”ではない、つまり両者が複合して存在していたため、ガタツキ音の発生を避けられませんでした。工作技術的に解決するのは非常に困難だったわけです。そこに現れたのが、画期的な“線接触”の理論「RV理論」なのです。(その詳細はP68をご覧ください。)